

言葉で感じる季節



「りょうふう」とも呼び、歳時記では夏の季語です。暑い時期は、ほんの少しの涼しさでもより心に残るからでしょう。秋になって初めて感じる涼しさは「新涼」や「初涼」と呼んで区別します。炎天下の中でふっと吹く涼風、日の暮れの涼風、暑い時期の涼しさを感じるのは一瞬ですが「もう少し頑張っ」とエールを送ってくれているようです。

例年、高温油を記録する
京都の盆地。
炎天下で熱された畑の
土からの地熱の暑さも相まり
汗が滝のように流れることも。

猛暑日が続く夏、農人たちはこまめな水分補給はもちろん、休憩時間には木陰を見つけてみんなでアイスを食べる休憩も取っています。ちょっとした涼を得ることで活力を補っています！

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.159

2020年8月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

今月の

ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

すらすらと細身ながらもしっかり食べ応えある夏葱のお届け

7月から引続き、美山・亀岡で生産・収穫した夏葱のお届けとなります。

4月下旬から5月上旬頃、山間エリアの過ごしやすい季節の中で育ち、

葱にとっても農人にとっても良い環境での定植をした思い出。

苗の状態も非常に良かったため、すくすくと成長して

いよいよ収穫を迎えます。

毎年8月は酷暑と言われる京都の夏。収穫は大変ですが夏の旬の葱を多くの人たちに楽しんでいただきたいと思います！



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

7月上旬の豪雨被害を受けて



雨量も異常に多く、風の強さも相まって倒伏してしまったねぎ畑

ちょうど収穫予定を控えた時期、立派に育った亀岡の夏葱が雨風の影響を受けて倒伏してしまい、収穫することができませんでした。

こと九条ねぎは、お客様に美味しいねぎをお届けするため、品種を限定し、こだわって生産しているねぎです。味もよく、風味もあり、食べて美味しい柔らかいねぎである反面、少しの雨風で倒れてしまう、大変デリケートなねぎでもあります。世話の焼けるねぎたちですが、農人一同、手間暇かけて面倒をみていただけに、倒れた光景を見た時のショックは胸が痛く、毎回慣れることはありません。ですが、ねぎたちが遅いと思うのは一度倒れてしまっても根元をカットしたら再びそこから元気にまっすぐ成長してくれます。期待を込めてカット作業を行い、次の収穫に向けて新たな気持ちでめげずに栽培を行っていきます！

春から新メンバーたちと体力つなげながら奮闘中！



倒れてしま前はほぼ立派で長さがありましたが、根元から倒伏してしまいました

夏のメイン産地は面積が広い！台風対策しながら、日々の生育管理もやることは盛りだくさん。